

よいことのために
手を取りあおう



Rotary
新潟西ロータリークラブ



週報



●会長/今野克久

●幹事/諏佐 渉

●公共イメージ向上委員長/羽田 朗

例会日/毎週木曜日12時30分 例会所/新潟市中央区万代島5番1号 ホテル日航新潟 TEL:025-240-1888

事務所/〒951-8062 新潟市中央区西堀前通6番町905番地 第二西堀ビル5階 TEL:025-222-5050 FAX:025-222-5051

創立年月日/昭和50年6月5日 RI加盟年月日/昭和50年6月25日

第2416回 2026年4月23日 例会報告

点鐘

会長挨拶

来週、再来週の例会は規定適用休会のため、4月最終例会になります。

今回は5月14日、移動例会兼職場訪問として、大河津分水資料館での開催となります。

大河津分水は、信濃川の水を分けて日本海へ流すことで、洪水から新潟の暮らしを守るために作られた重要なインフラで、100年以上にわたり地域を支え続けてきた場所です。私たちの生活は、こうした見えない支えの上に成り立っていることを、改めて感じるととてもいい機会になるのではないかと思います。

詳しくは当日の楽しみにしてください。

さて、ゴールデンウィークの中には、5月5日「子供の日」もございませう。

ロータリー財団では、日本をはじめ世界中で、子供たちの未来を支える活動が行われています。

例えば、モンゴルの首都ウランバートル郊外のゲル地区では、グローバル補助金の支援により、学校の二つの図書館が改装され、約3,400人の子供たちが利用できるようになりました。この地域では、水道や電気が整っていない家庭も多く、教科書を購入できない子供たちも少なくありません。新しくなった図書館には、教科書や学習資料が整い、暖かい環境の中で勉強ができるようになりました。

こうした取り組みは、まさに子供たちの未来をつくる活動だと感じます。

そして私どもの会社にも、モンゴルから来て頑張っている社員がおりますので、こうした話を聞くと、より身近に感じ、嬉しく思います。

世界のどこかで行われている支援が、誰かの未来につながっている。

それもまた、ロータリーの大きな役割だと思います。

少し例会が空きますが、素敵なゴールデンウィークをお過ごしください。また元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。

伝達 ロータリー財団寄付表彰

片野 勉君 ポールハリスフェローピン +4

100%出席バッチの贈呈 片野出席委員長

井上基之君 2年

公共イメージ向上委員会 羽田委員長

ロータリーの友 4月号紹介

職業奉仕委員会 吉村(鳳)員長

5月14日職場訪問(移動例会)の参加依頼について

ニコニコボックス紹介 竹内委員

大澤 力君 ロータリーの友4月号に、当クラブのグローバル補助金が掲載されました。皆さんのおかげです。ありがとうございます。

長井竜一君 設立記念ありがとうございます。

加藤慎人君 娘の誕生日なのでニコニコします。

ニコニコBOX 総計 570,400円

幹事報告 諏佐幹事

・本日例会終了後、定例理事会を開催いたします。

・次回よりクールビズ開始について

卓話

会員スピーチ

渡辺文司氏

第2416回 2026年4月23日例会報告

	会員数	出席者数	欠席者数	出席率
4/23	57(55)名	38名	17名	69.09%

第2417回 2026年5月14日例会報告 職場訪問(移動例会)

於：大河津分水資料館

	会員数	出席者数	欠席者数	出席率
5/14	57(54)名	33名	21名	38.89%

ゲスト

米山奨学生 石 人月さん
同伴 3名

第2418回 2026年5月21日 例会報告

点鐘

会長挨拶 代理 中村副会長

本日は、会長ならびに幹事が会長幹事会に出席しておりますため、私、副会長の中村が代わりましてご挨拶を申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

まずは、先日の職業奉仕委員会による職場訪問につきまして、ご参加いただいた皆さま、そして企画・準備をいただいた職業奉仕委員会の皆さまに、感謝申し上げます。大変お疲れさまでした。

職業奉仕委員会では、「私たちの暮らしと水」をテーマに、2024年には「亀田郷土地改良区 芦沼館」、2025年には「親松排水機場」、そして今回は「信濃川大河津資料館」を訪問いたしました。私たちの暮らしは、水と深く関わっています。

農業用水、排水、治水、そして日々の生活の安全。普段は当たり前のように感じている暮らしも、実は多くの先人たちの努力や、地域を守るための施設、制度、そして関係者の皆さまの尽力によって支えられていることを、改めて学ぶ機会になったのではないかと思います。

今回の一連の職場訪問は、単なる見学ではなく、私たちが暮らす地域を知り、地域の成り立ちや課題に目を向ける、まさにロータリーらしい社会奉仕活動であったと思います。

ご参加いただいた皆さま、ありがとうございます。さて、5月はロータリーの「青少年奉仕月間」です。青少年奉仕は、次代を担う若い世代の成長を支え、国際理解や平和への意識を育む、ロータリーにとって大切な奉仕部門の一つです。

来年度、当クラブでは長期交換留学生としてドイツから、また短期交換留学生としてカナダから学生をお迎えする予定です。

異なる国や文化の中で育った若者を地域で受け入れることは、学生本人にとって大きな学びとなるだけでなく、私たちクラブにとっても国際理解を深める貴重な機会になります。

言葉や生活習慣の違いに戸惑うこともあるかもしれませんが、

しかし、会員一人ひとりが温かく声をかけ、見守り、支えていくことで、学生たちにとって忘れられない経験となり、また私たち自身にとっても新たな気づきや喜びにつながるものと思います。

来年度に向けて、クラブ全体でしっかりと受け入れの準備を進めてまいりたいと思います。

また、来年度に向けた準備という点では、今週末、開催されるCLLSについても触れたいと思います。CLLSとは、クラブ・リーダーシップ・ラーニングセミナーのことで、これまで「地区研修・協議会」あるいは「地区協議会」と呼ばれていたものです。名称が「研修」から「ラーニング」、つまり「学び」へと変わったことには、大きな意味があるように思います。

単に地区から方針を聞く、知識を教わるということではなく、次年度のクラブ運営に関わる会長、幹事、各委員長、そして会員が、地区の方針やロータリーの方向性を共有し、それぞれのクラブでどのように実践していくかを考える場であり、ロータリーも時代とともに変化しています。

クラブが取り組むべき課題は多岐にわたります。その中でCLLSは、次年度のクラブ活動を円滑にスタートさせるための大切な学びの機会であり、クラブの方向性を確認する場でもあります。

特に「クラブ・リーダーシップ」という言葉には、会長や幹事だけがクラブを動かすのではなく、会員一人ひとりがそれぞれの立場でクラブを支え、奉仕活動に参加し、クラブをより良くしていくという意味が込められているように感じます。

社会奉仕委員会による「私たちの暮らしと水」をテーマにした学び、青少年交換を通じた国際理解、そしてCLLSでの次年度に向けた学び。

これらはすべて、私たちのクラブが地域に根ざしながら、未来へ向けて活動をつないでいくための大切な取り組みであります。

今年度も残り少なくなってきましたが、次年度への引き継ぎも意識しながら、会員の皆さまとともに、より充実したクラブ活動を進めてまいりたいと思います。

新会員紹介

(有)石山板金興業 代表取締役 長谷川将樹君
(紹介者 三浦英敏君、今野克久君)

米山奨学生に奨学金の贈呈

石 人月さん 挨拶

田村 修君 元米山奨学生 チャスナさん 近況報告

誕生・設立記念日お祝い品の贈呈

田中(祐)親睦委員長

5月お誕生日お祝い

6日 加藤慎人君

5月設立記念日お祝い

1日 加地正樹君
1日 森田雅巳君
1日 佐藤優子君
8日 林 高弘君
8日 小林 治君
25日 鈴木賢一君
30日 内藤豊大君

公共イメージ向上委員会 羽田委員長

ロータリーの友 5月号紹介

米山奨学委員会 早川委員長

馬場伸行君、田村 修君、三浦英敏君、笹川和史君からそれぞれ1万円いただきました。

ニコニコボックス紹介 山口委員

吉村鳳一君 先週の職場訪問、ありがとうございます。皆様のお陰で生涯の思い出になりました。ありがとうございます。

馬場伸行君 姉会のゴルフに参加させていただきました。感謝です。

鈴木賢一君 皆様のおかげで何とか食べれています。ありがとうございます。(設立記念)

加地正樹君 創立記念ありがとうございます。

森田雅巳君 設立祝いありがとうございます。

小林 治君 設立記念ありがとうございます。

井上基之君 100%バッチありがとうございます。

佐藤優子君 設立記念ありがとうございます。

加藤慎人君 誕生日の祝いありがとうございます。

林 高弘君 ご寄付いただきました。

笠原康代君 このたびは、温かいお心遣いとお香典を頂きありがとうございます。また、ご多忙の中、弔問にお越しいただいた皆様もありがとうございます。今後ともよろしくお願ひ致します。

ニコニコBOX 総計 603,400円

幹事報告 代理 小林副幹事

・今月のロータリーレート 1ドル 160円

卓話

『一生歩ける体作り』

もろはし治療院 院長 師橋延行氏

第2418回 5月21日例会報告

	会員数	出席者数	欠席者数	出席率
5/21	58(56)名	32名	24名	57.14%

ゲスト

米山奨学生 石 人月さん